

茨城県内の博物館の楽しみ方

かすみがうら市郷土資料館

学芸員 千葉 隆 司

経歴：国士舘大学・明星大学卒業後、茨城県内中学校教諭を経て、現在かすみがうら市郷土資料館学芸員として勤務。平成17年より筑波学院大学非常勤講師・平成24年度より茨城大学非常勤講師。

1. 博物館とは？

日本の近代的博物館は、明治4(1871)年の文部省博物局、翌年の文部省博物館の設置により始まりました。その後、多くの博物館が開設される中、昭和26(1951)年には博物館法が制定され、第1条にあるように「・・・国民の教育、学術及び文化の発展に寄与すること」が目的とされ、社会教育法第9条でも社会教育のための施設と位置付けられました。つまり、博物館は学校と同様に「教育・学習のための施設」です。

博物館と言っても、その種類は多種多様です。美術館・科学館・自然や歴史博物館もあれば、動物園、水族館、植物園なども含まれます。そして、公立・私立・民間といったように設置主体も様々で、現在では全国に5,000以上の博物館が存在しています。博物館が増加した背景には、いろいろな要因がありますが、日本人の本物志向や知的好奇心が豊かな国民性があると考えられます。

2. 博物館の魅力と楽しみ方

博物館は、あらゆるモノを通して学ぶ場です。そこには“ホンモノ”が中心にあります。数億年前の恐竜の化石、地域の遺跡から発見された土器や石器、郷土の偉人の関連資料、先人が祈りを捧げた仏像彫刻、地域の情景を描いた美術作品、地域産業となった伝統工芸品など様々な“ホンモノ”の素晴らしさが味わえるのが博物館です。

“ホンモノ”に触れ、じっくり観察し、解説や写真パネルなどで理解を深めると知識や教養となり、そこから新たな興味関心が湧いてきます。博物館の魅力は、こうした人間の好奇心を揺さぶり、潜在する可能性を発展させ、時には人生設計にも影響を与えるものとなることです。

また、博物館は、展示を見学するといった利用

法ばかりではありません。講座や教室などの座学をはじめ、観察会や史跡巡りとといった野外活動、友の会や市民学芸員の会といった同じ興味を持った方々との交流などがあります。モノの調査・収集・研究を通して集積される博物館の知的情報が、アイデアと工夫で企画立案される事業となり、楽しみながら学ぶ内容に仕上げられます。そして多くの方々に自らの未知の可能性を発見していただくきっかけとなっているのです。

教育施設である博物館が学校と違う点は、決められた時間内のカリキュラム(時間割)や学習成果を図るシステム(テスト)がない点です。学びたい、知りたいと思う自由な時間に来館し、分かる・納得がいくまで見学することができます。興味をもったモノに対し更に専門的な知識を得たい時には、学芸員に問い合わせることができます。学芸員との交流は、本格的な専門的知識の導入となり、知的好奇心を満足させること間違いなしです。

地域の偉人をテーマにした講演会

3. 地方博物館と生涯学習

博物館の中でも地方の博物館は、その設置自治体の行政範囲が調査研究及び情報発信の対象となることが一般的です。そのため、日頃から地域の人々との交流が日常的な業務の中にあります。常に地域の調査研究を積み重ね、成果に基づく地域の魅力情報を発信する博物館に対し、そうした情報を受け



かすみがうら市郷土資料館の講演会

止める地域の人々の構図です。地域の人々は、地域に生きる中で、自らのキャリアデザインやコミュニティを常に模索しており、それらは生涯学習的な活動といえます。地方博物館が、蓄積する魅力的な地域情報は展示及び教育普及事業として地域の人々を中心に発信されますが、地域の人々にとって有効な生涯学習の教材となっています。

高齢化する地域社会ですが、元気に生き生きと

した第二の人生をつくり上げていくためには、これら地方博物館の魅力あふれる地域情報を取り入れていくことが大切です。さらに博物館を生涯学習的に利用することで、地域の人々それぞれに地域コミュニティが生まれ、失われつつある地域の絆や相互扶助の関係を再構築することにも繋がります。

4. 茨城県内の博物館

茨城県には62館に及ぶ博物館(茨城県博物館協会加盟館数)があります(参照：図1)。歴史・民俗系34館、美術系16館、自然科学系8館、産業系3館、動物系1館と歴史民俗系が半数以上を占めています。いずれの館も特色を出して経営されていますが、共通することは地域の素晴らしい情報を発信する、地域文化の中核的拠点となっていることです。それぞれの博物館を訪れると地域話題をテーマにした特別展や埋もれた地域情報を扱った講座、地域の魅力再発見のための野外学習会、博物館を通じた地域の方々によるボランティア活動など多くの事業が組まれていることを知ることができます。

博物館は、地域を知るための重要な施設です。地域を知ることで、地域の魅力を実力と捉えなおし、地域に愛着と誇りを持つことができ、他地域にPRしたくなります。他地域の方々にも博物館へ来館していただき、地域情報を得て、目的をもって地域を周遊していただくことにも繋がります。多くの方々それぞれ地域の良さを知り、交流人口が増加すれば自ずと活性化の

歴史・民俗

- 北茨城市歴史民俗資料館 野口雨情記念館
- 高萩市歴史民俗資料館
- 日立市郷土博物館
- 常陸太田市郷土資料館
- 常陸大宮市歴史民俗資料館 大宮館・山方館
- 那珂市歴史民俗資料館
- ひたちなか市 埋蔵文化財調査センター
- 武田氏館
- 大洗町幕末と明治の博物館
- 願入寺開基堂(資料館)
- 偕楽園好文亭・特別史跡旧弘道館
- 常磐神社義烈館
- 徳川ミュージアム
- 茨城県立歴史館
- 水戸市立博物館
- 常陽史料館
- 笠間市立歴史民俗資料館

- 小美玉市玉里史料館
- 小美玉市小川資料館
- 長勝寺宝物陳列室
- 鹿島神宮宝物館
- 神栖市歴史民俗資料館
- かすみがうら市郷土資料館
- 土浦市立博物館
- 上高津貝塚 ふるさと歴史の広場
- つくば市谷田部郷土資料館
- つくばみらい市立 間宮林蔵記念館
- 龍ヶ崎市歴史民俗資料館
- 利根町立歴史民俗資料館
- 阿見町予科練平和記念館
- 真壁伝承館歴史資料館
- 下妻市ふるさと博物館
- 八千代町歴史民俗資料館
- 境町歴史民俗資料館
- 古河歴史博物館

美術

- 茨城県天心記念五浦美術館
- 和紙人形美術館 山岡草常設館
- 大洗美術館
- 茨城県近代美術館
- 常陽藝文センター
- 水戸芸術館 現代美術センター
- 笠間日動美術館
- 笠間稲荷美術館
- 田中嘉三記念館
- 茨城県陶芸美術館
- ひょうたん美術館
- 茨城県つくば美術館
- 月山寺美術館
- 岩瀬石彫展覧館
- しもだて美術館
- 坂東市立猿島資料館 (さし郷土館ミュージズ)

自然科学

- 原子力科学館
- アクアワールド 茨城県大洗水族館
- 大洗海洋博物館
- 常磐大学 博物館学博物館
- つくばエキスポセンター
- 産業技術総合研究所 地質標本館
- 国土地理院 地図と測量の科学館
- ミュージアムパーク 茨城県自然博物館

産業

- 日鉦記念館
- 西ノ内和紙 紙のさと資料館
- 本場結城紬織資料館 「手織里」

動物

- 日立市かみね動物園

図1：茨城県内の博物館(茨城県博物館協力「いばらきの博物館」より引用)

方向へ向かうはずですが。

地域の史跡巡り

5. 博物館から地域活性化

地方創生が叫ばれる現在、地域を愛するそして地域を考える人材が増加することが地域を創生するための基本原則です。しかし、その前段として地域のすばらしさを十分に知ることが必要です。地域のすばらしさは、歴史の中で育まれたものばかりですので、それを知るには博物館が有効なものとなります。地域の良さが次々と話題にされ、地域で生きる意味を考えることが全国各地で国民全体に広がれば、自ずと地域創生となり、人口減少にも影響を及ぼすことにも繋がるものと考えます。人工的に作り上げられ普遍的になりつつあるものよりも、自然的に発生し地域の風土の中に存在するものとの共生が、心豊かな人間を形成し、すばらしい生活環境を整える要素なのです。

博物館は、こうした地域に埋もれた情報を集積していますので、地方創生においても博物館の役割が再認識され、博物館から地域が元気になるシステムを構築できるような私も努力し続けていきたいと思っています。



かすみがうら市郷土資料館史跡巡り

■この「つくばのシニア人材紹介コーナー」は、つくば市が2008年度から推進している「つくば市OB人材活動支援事業」に登録されている研究者・教育者の方々より寄稿を受けて作成しています。現役を一旦引退されてもいつまでも社会発展の牽引力となって活躍をされている方々の研究実績や業務経験の一端をご紹介させていただくものです。